

1. 調査報告概要表

作成日 平成21年 9月25 日

【評価実施概要】

事業所番号	107100273		
法人名	有限会社 えにし		
事業所名	グループホーム ほのか		
所在地	群馬県安中市原市1303-1 (電 話) 027-380-2272		
評価機関名	サービス評価センターはあとらんど		
所在地	群馬県前橋市大渡町1-10-7 群馬県公社総合ビル5階		
訪問調査日	平成21年8月21日		

報提供票より】(21 年 8 月 1 日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 16 年 7 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	12人	常勤 5 人, 非常勤 7 人, 常勤換算	7.5

(2)建物概要

建物構造	木造 造り		
	1 階建ての 階 ～ 1 階部分		

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有(円)	○無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) ○無	有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食	300 円	昼食 300 円
	夕食	350 円	おやつ 50 円
	または1日当たり 円		

(4)利用者の概要(8 月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性 0 名	女性 9 名
要介護1	0 名	要介護2	4 名
要介護3	1 名	要介護4	3 名
要介護5	1 名	要支援2	0 名
年齢	平均 90.2 歳	最低 81 歳	最高 100 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	碓氷病院 ・ 須藤病院 ・ 半田内科医院 ・ 半田歯科医院		
---------	-------------------------------	--	--

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

“ほのぼの・のんびり・のどかな暮らし”をモットーに、管理者・職員は連携を密にしながら、前向きな姿勢でケアの実践に取り組んでいる。利用者一人ひとりがその人らしく暮らせるよう、思いや意向の把握に努め、温かく見守りながら支援している。入居前の本人と家族の関係・本人と馴染みの人との関係が、入居してから途切れないよう関係継続の支援に努めている。管理者・職員は各種研修に参加したり、認知症関係の資料等を取り寄せ勉強しており、研修の充実を図っている。緑の多い静かな環境に立地しており、ウッドデッキや玄関から自由に菜園や庭に出ることができる。菜園では野菜を収穫し、新鮮で安全な野菜を食材として取り入れている。利用者が家事や趣味等を楽しみ、犬や金魚とふれあいながらゆったりと生活しているホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	栄養摂取や水分確保の支援については、食事や水分の摂取状況を毎日記録し、職員は情報を共有しながら支援しており、改善されている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目②	自己評価の意義や目的を全職員に伝え、項目を分担し全員で記載しており、管理者が総括を行っている。職員は自らの実践を点検し、改善点について考える機会としている。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目③	運営推進会議は定期的に(2ヶ月に1回)開催されている。利用者の状況・活動報告・職員関係等について報告し、参加者から意見や要望を受け話し合いを行っている。そこでの意見等は運営に反映させている。参加メンバーの意見により、公民館の作品展に利用者の作品(貼り絵・ビーズアクセサリー等)を出展している。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
重点項目④	家族等の来訪時や運営推進会議の際には、話しやすい雰囲気づくりに留意し、苦情や意見、要望等を聴くように努めている。意見箱の設置や苦情受付窓口も案内しており、出された意見等は職員会議等で検討し、運営に反映させている。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	自治会に加入しており、ホーム内で広報誌を回覧している。近隣の人達には、散歩や買物時に挨拶や話をしたり、駐車場を開放している。花や菓子を頂いたり、自家菜園で収穫した野菜をおすそ分けすることもある。中学生の職場体験学習や地域ボランティアの慰問等の受け入れをしている。地元の祭りの見学や利用者の手作り品を公民館の作品展に出展する等、日頃から地域住民との交流に努めている。

2. 調査報告書

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義を確認しながら、職員間で話し合い、「地域とのつながりを大切に、自分らしく暮らす」という事業所独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は理念を共有し、日々の生活の場において問題や課題が生じた時に、職員会議等で理念に照らし合わせて話し合い、ケアの方向性を確認しながら理念の実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており、ホーム内で広報誌を回覧している。近隣住民には散歩や買物時に挨拶や話をしたり、駐車場を開放し、花や菓子を頂くこともある。自家菜園で収穫した野菜をおすそ分けすることもある。中学生の職場体験学習や地域ボランティア(踊り・童謡くらぶ等)の慰問の受け入れを行っている。地元の祭りの見学や公民館の作品展に利用者の手作り作品(貼り絵・ビーズアクセサリ等)を出展する等、日頃から地域住民との交流に努めている。		
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義や目的を全職員に伝え、今回の自己評価については職員全員で分担して意見を記入しており、管理者が総括を行っている。外部評価の結果を受け、改善点について職員会議で話し合い、具体的な改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は定期的(2ヶ月に1回)に開催されている。利用者の状況・活動報告・職員関係等について報告し、参加者から意見や要望を受け話し合いを行っている。そこでの意見等は運営に反映させている。メンバーからの意見により、利用者の作品(貼り絵・ビーズアクセサリ等)を公民館の作品展に出展している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	対応困難な事例や苦情等の相談等で、市の担当窓口に出向いたり、電話で助言やアドバイスを受けている。市の担当者と連携を図りながらサービスの質の向上に努めている。月1回市の介護相談員の受け入れを行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月ホーム便りを発行し、個別の近況報告を記入して家族等に配布している。家族等の来訪時には、利用者の健康状態や暮らしぶりについて報告をしている。身体状況等の変化については、随時電話にて連絡を取っている。金銭管理の報告は定期的に行われている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等の来訪時や運営推進会議の際には、話しやすい雰囲気づくりに留意し、苦情や意見等を聴くように努めている。意見箱の設置や苦情受付窓口の案内もしており、出された意見等は職員会議等で検討し、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係が維持できるように、職員の異動や離職は最小限に抑えるよう努めている。やむを得ず職員の交代がある場合は、一時的に職員配置を多くし、密度の濃いコミュニケーションに努め、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験や資格に応じて研修の機会を作り、参加するよう努めている。実践者研修・基礎研修・学習療法・タクティールケア・園芸療法・認知症高齢者の理解と基本的なケア等を受講しており、内容については会議で報告し資料は回覧している。年1回消防署の協力を得て、事業所内で救命救急の講習を実施している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会に加入しており、大会・各種研修会・交換研修等に参加し、同業者との交流を図り情報交換等を行っている。また、近隣の事業所の花見や納涼祭に、利用者と職員が参加し交流を図っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
sikaku					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に本人・家族等から、思いや状況、困っていること等を詳しく聴き取るようにしている。本人・家族等に見学を勧めており、ホームの様子を見てもらい本格的な利用に繋がるよう支援している。入居後も言葉かけを多くしたり、家族や友人の協力を得て、面会や外出・外泊等をしてもらいながら、徐々に馴染んでもらえるよう努めている。職員全員で本人の性格や生活パターンを把握し相談しながら、過ごしやすい場所になるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという考えを職員が共有しており、日常の生活場面で、昔の地域のこと、どんど焼きの繭玉づくり、野菜づくり、料理の味付けや裁縫等教わることも多い。共に過ごし支えあう関係が構築されている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で、優しく言葉かけを行い、思いや意向の把握に努めている。言葉や仕草、表情等から真意を推し測ったり、さりげなく確認するようしている。家族等からも情報を得るようにしており、その情報を職員間で共有しながら日々のケアに活かしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族等には日頃のかかわりの中で思いや意見を聴き、介護計画に反映させるようにしている。月1回モニタリングを行い、カンファレンスで職員間で話し合い、それぞれの気づきや意見等を反映させた利用者本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは3ヶ月に1度と状態の変化に応じて随時実施している。職員間で話し合い、本人・家族等に確認しながら、現状に即した新たな計画を作成している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	平成20年5月より、空き部屋の短期利用ができるように届け出をしている。本人や家族の状況、その時々要望に応じて、通院介助、送迎、買物、入院中の洗濯物等、柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人・家族等に確認し、希望に応じたかかりつけ医が継続されている。かかりつけ医との連携を図りながら、適切な医療を受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化した場合における対応にかかる指針」を定め、家族等、かかりつけ医、看護師を交えて話し合いを行っている。状態の変化に応じて、かかりつけ医とも連絡を密にとり、全員で話し合いをくり返ししながら、家族等の思いに沿って支援をしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人の尊厳を大切に、言葉かけや対応に配慮しながら支援している。記録等の個人情報に関しては秘密保持の徹底を図るよう努めており、職員へ就業規則で説明し、誓約書を交わしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合に合わせるのではなく、本人のペースで生活できるよう、起床、就寝、入浴、食事の時間等、一人ひとりの状態や思いに配慮しながら支援している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は力量に応じて、野菜の下ごしらえ、調理の味付け、テーブル拭き、後片付け等を職員と一緒にやっている。菜園で収穫した野菜は食材として調理されている。利用者の希望を取り入れた献立を作成し、彩りや盛り付け等も工夫しながら食事が楽しみなものになるよう支援している。毎月寿司の出前を取り、楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日の一応の設定はあるが、利用者の希望やタイミングに合わせて、いつでも入浴できる体制にしている。毎月、地元の日帰り温泉に出かけ、楽しんでいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴や力量を把握し、野菜づくり、調理や野菜の下ごしらえ、モップかけ、洗濯の手伝い、テーブル拭き等、役割を持ち日常的に継続できるよう支援している。ペットの世話、花見、果物狩り、日帰り温泉、敬老会、カラオケ、詩吟、短歌、ビーズアクセサリー等で楽しみごとや気晴らしの支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気や本人の気分に応じて、散歩や買物、ドライブ、季節の花見、果物狩り、ウッドデッキや玄関先でお茶を楽しむ等、戸外に出て季節を感じてもらえるよう支援している。また、お墓参り、生家や子供の家への訪問、家族旅行等は家族や友人の協力で行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の鍵は極力かけない方向でいるが、利用者の状況に応じては、家族等に説明し施錠する時がある。センサーを設置したり、利用者の状況の把握や職員の見守りにより安全面に配慮しながら、施錠を常態化しないよう努めている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、年2回防火避難訓練を利用者と一緒に実施しており、避難誘導時の注意やアドバイスを受けている。特に夜間体制(職員1人)では、初期消火や通報、避難誘導等で近隣住民の協力が重要になるので、協力依頼を行っている。緊急時連絡網、緊急対応マニュアルを作成している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の好みの物を取り入れたり、嚥下状態に応じて食事形態を変え、食べやすい工夫をしている。便秘の予防や対応のために野菜を多く食材に取り入れ、水分補給に努めている。食事や水分の摂取状況を毎日記録し、職員は情報を共有しながら支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先に置かれたプランターには季節の花を飾り、ベンチを設置している。ホールは天井が高く開放感があり、テレビ、ソファや籐の椅子、畳コーナーもあり、ゆっくりと過ごせる場所となっている。季節の生け花、だるま、金魚の水槽、手製の布カレンダー、利用者の作品(貼り絵)等を飾っている。自家菜園があり、ウッドデッキでは日向ぼっこやお茶会をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	簞笥、卓上テーブル、衣装箱、衣装掛け、バック、椅子、茶道の道具、化粧品、縫いぐるみ、時計、家族の写真等、馴染みのものや好みのものが持ち込まれ、本人が居心地よく過ごせる場所となっているように見受けられた。		